

大分大学教育学部附属小学校 学級経営研修

2025. 4. 2

グローバルリーダー（Think globally、act locally）の育成
～未来へ向かって高い志を持ち、人や社会と豊かに関わり、
自己を磨き合う子どもの育成～

各教科・領域の授業研究

グローバルリーダーに求められる
エージェンシーの育成
～自己調整学習を通して～

学級経営

学習指導要領「総則」第4の1

(1)学級経営の充実

(2)生徒指導の充実

(3)キャリア教育の充実

(4)指導方法や指導体制の工夫改善による個に応じた指導の充実

学習指導要領では、『学級経営は、特別活動を要として計画され、特別活動の目標に示された資質・能力を育成すること』でさらに深化が図られ、このことが「**学びに向かう集団づくりの基盤**」であると位置づけている。

（「小学校学習指導要領 解説特別活動編」2019年）

学級経営の充実は、生徒指導から授業改善まで広げられている

学級集団が形成されていなければ
「主体的・対話的で深い学び」は成り立ちません。

『総合教育技術』 2020年2月号より

「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、
子どもたちが協働し、自ら問題解決していくような
学級集団づくりが求められています。

『総合教育技術』 2021年12/1月号より

上越教育大学教職大学院 教授 赤坂真二

日頃の学級経営が、授業に反映される

生徒指導提要（2022年12月改訂）

「自己指導能力の獲得をめざす」

生徒指導提要（2022年12月改訂）

教科の指導と生徒指導の一体化した授業づくり

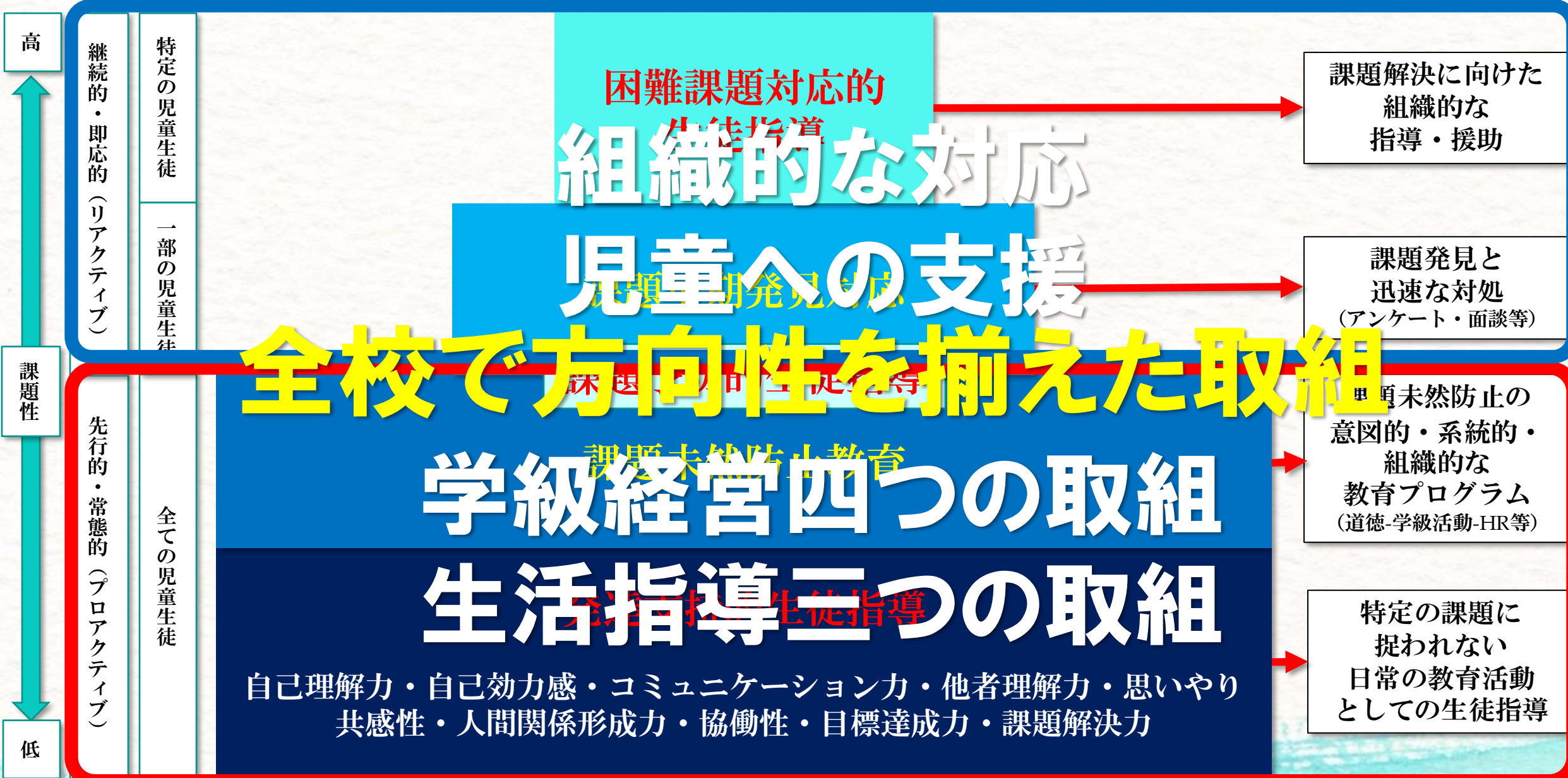
(1)自己存在感の感受を促進する授業づくり

(2)共感的な人間関係を育成する授業

(3)自己決定の場を提供する授業づくり

(4)安心・安全な「居場所づくり」に配慮した授業

本校の取組と「生徒指導提要」の関連



高

課題性

低

継続的・即応的（リアクティブ）

特定の児童生徒

一部の児童生徒

先行的・常態的（プロアクティブ）

全ての児童生徒

困難課題対応的
組織的な対応
児童への支援

全校で方向性を揃えた取組

学級経営四つの取組
生活指導三つの取組

自己理解力・自己効力感・コミュニケーション力・他者理解力・思いやり
共感性・人間関係形成力・協働性・目標達成力・課題解決力

課題解決に向けた
組織的な
指導・援助

課題発見と
迅速な対処
(アンケート・面談等)

課題未然防止の
意図的・系統的・
組織的な
教育プログラム
(道徳-学級活動-HR等)

特定の課題に
捉われない
日常の教育活動
としての生徒指導

フリートークの取組

1. 本校が取り組むフリートークとは・・・

お題に沿って、児童が自由に自分の考えを伝え合う活動

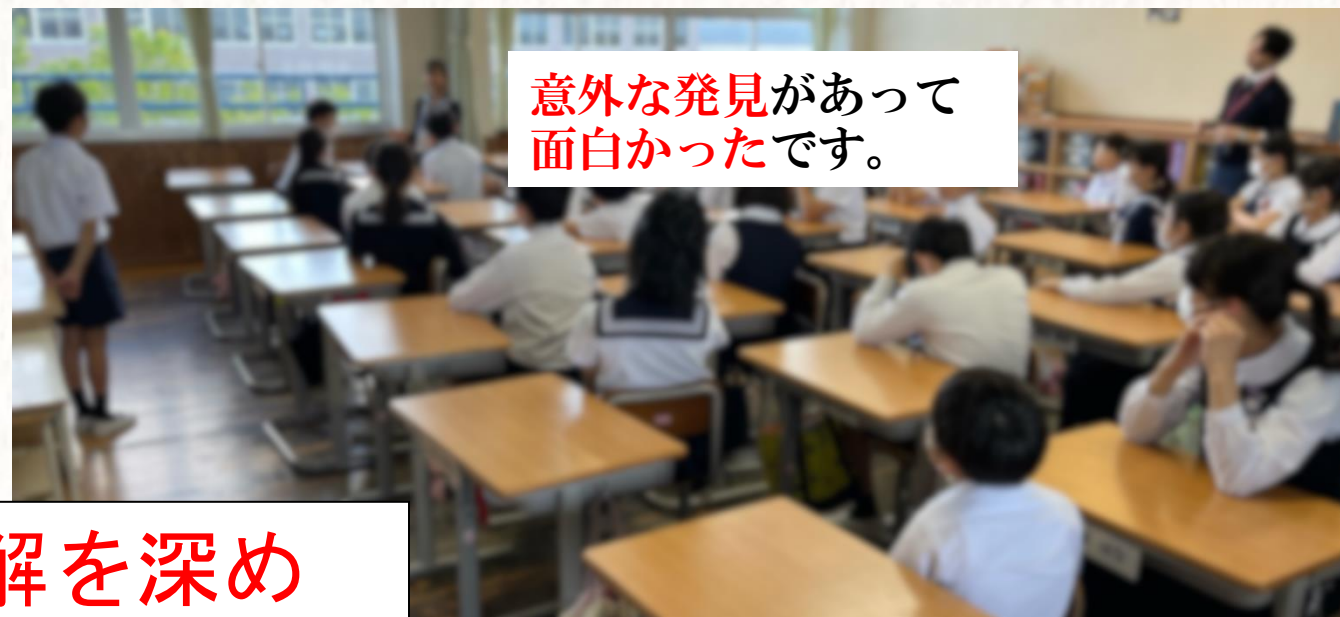
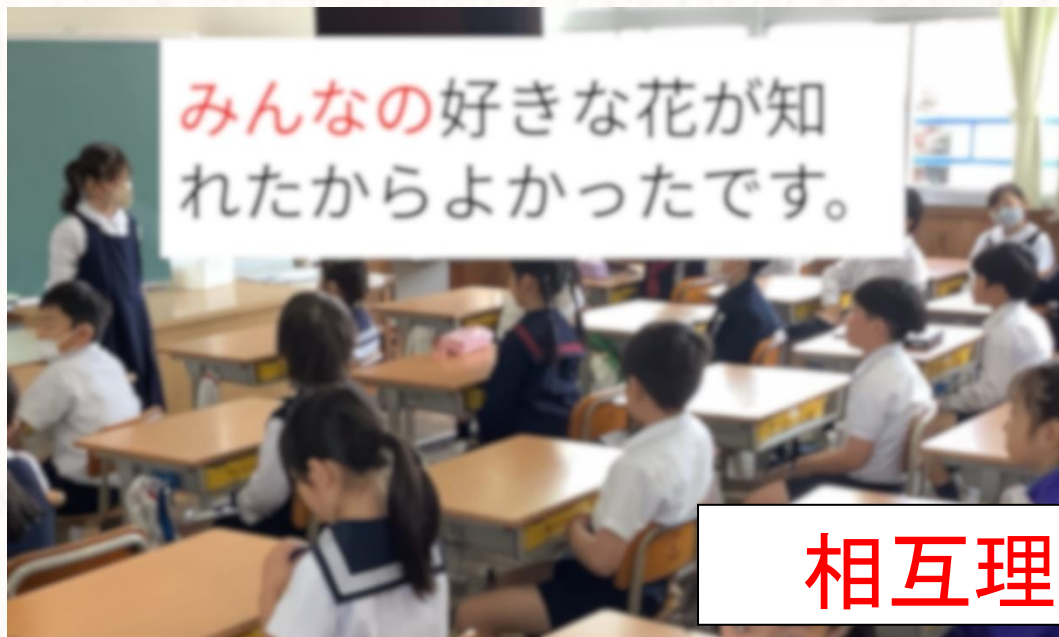


<ねらい>

相互理解を深めたり、共感的に聴く姿勢や心を育んだりすることにより、コミュニケーション活動の土台となる豊かな人間関係を醸成する。

* 山口大学附属山口小学校の取組を参考に...

フリートークの取組



相互理解を深め



ほめ言葉のシャワーの取組

1. 本校が取り組むほめ言葉のシャワーとは・・・

一人ひとりの良いところやがんばりを見つけ合い伝え合う活動



<ねらい>

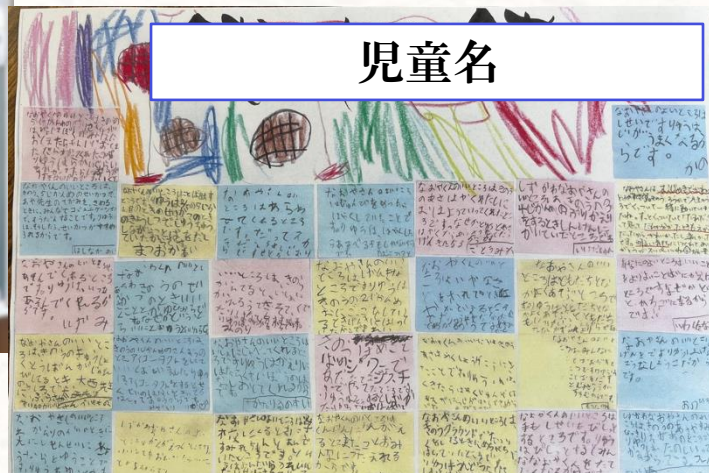
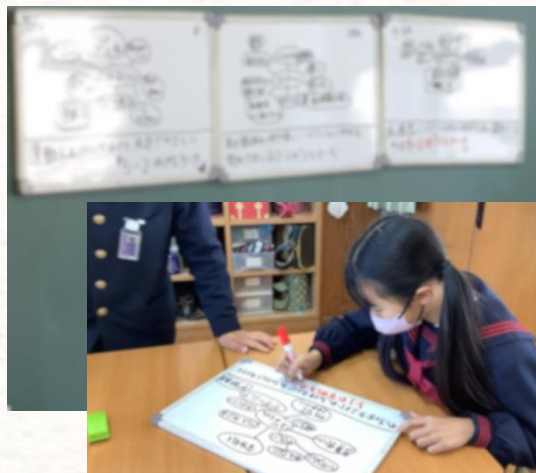
①「自己肯定感を高める」

友達からさまざまなほめ言葉を受けることによって、自分のいいところを再認識したり、新しい良さを発見したりすることを通して、自己肯定感を高める。

②「学級に受容的な雰囲気を作る」

お互いの良さを見つめ直し、相手の立場に立って考えることができるようになったり、毎日様々なほめ合う言葉に接したりすることを通して、学級に受容的な雰囲気を作ることができる。また、共感的な人間関係を育み、教室を自信と安心の場所にする。

ほめ言葉のシャワーの取組



児童名

いいところを再認識・新しい良さを発見

様々なほめ言葉に接し



先生も参加（楽しい・安心）

児童名

「いっしょ
→あやめさんいっしょ
おんねと一緒」

児童名

児童名

ほめ言葉のシャワー

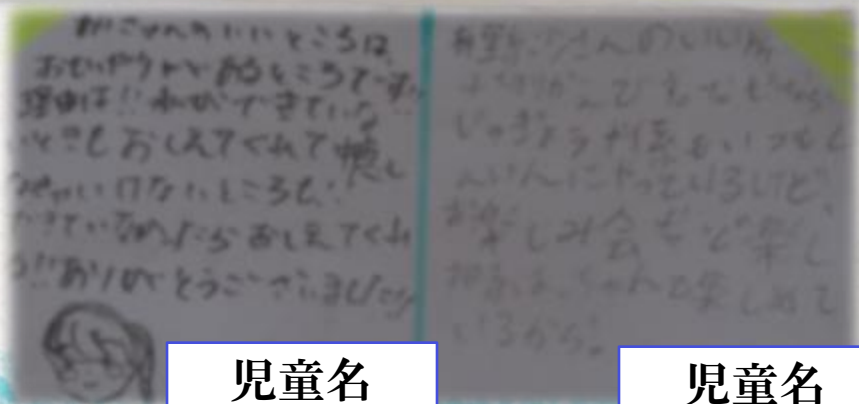
児童名

児童名

児童名

児童名

【黒板やカードで共有】



ほめ言葉のシャワー

児童名

児童名

児童名

児童名

【一人一人のほめ言葉のカードを教室に掲示】

価値語の取組

1. 本校が取り組む価値語とは・・・

子どもたちの考え方や行動をプラスに導くための言葉。また、広めたいと思う姿、良い姿、目指す姿を表した言葉

<ねらい>

価値語を示すことにより、子どもたちの感化を促し、自発的な成長を目指す。



4. 1年間の見通しの持ち方(例)

時期	年度初め	年度中期	年度終わり
内容	・学級全体に共通させたい重要な行為 ・生活や学習規律、学年で共有したい姿	・非言語の良さや友だち関係の美しさ ・行事に関連して ・心情、内面 など	・1年間の成長を振り返って (成長を実感) (次年度に向かう)
例	← 規 律 → 4月 → 3月 ← 生 き 方 →		
			*資料① 参照

価値語の取組



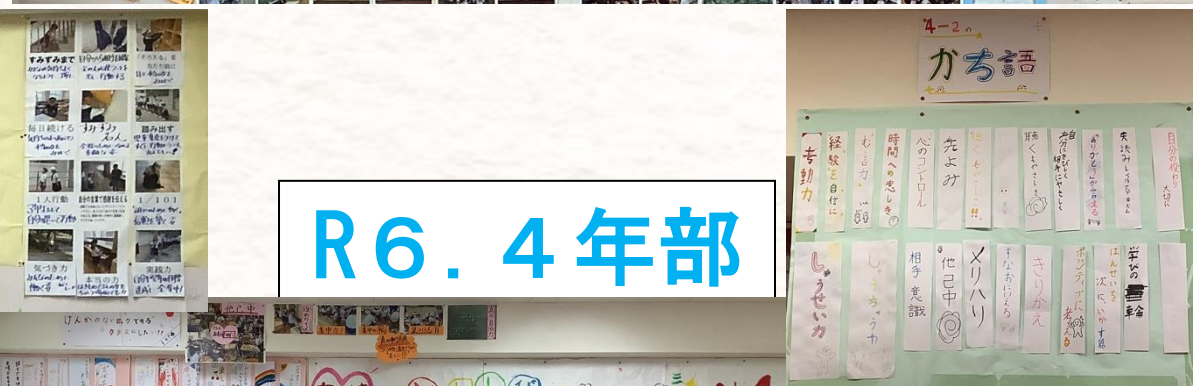
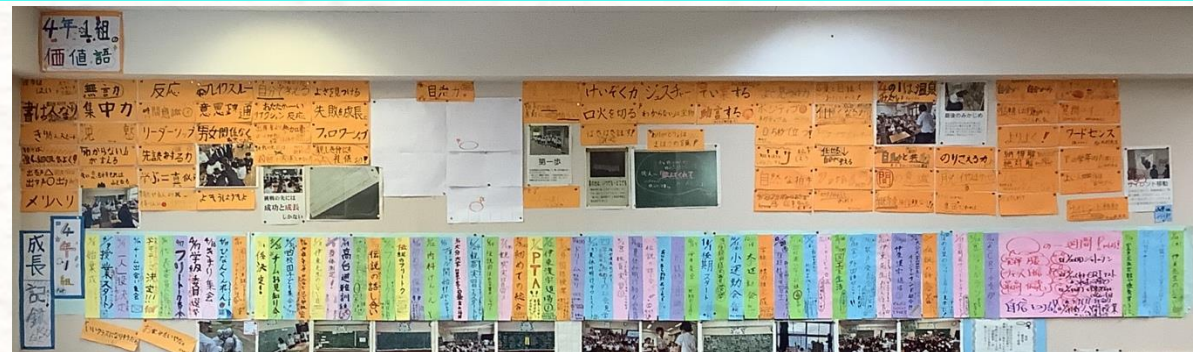
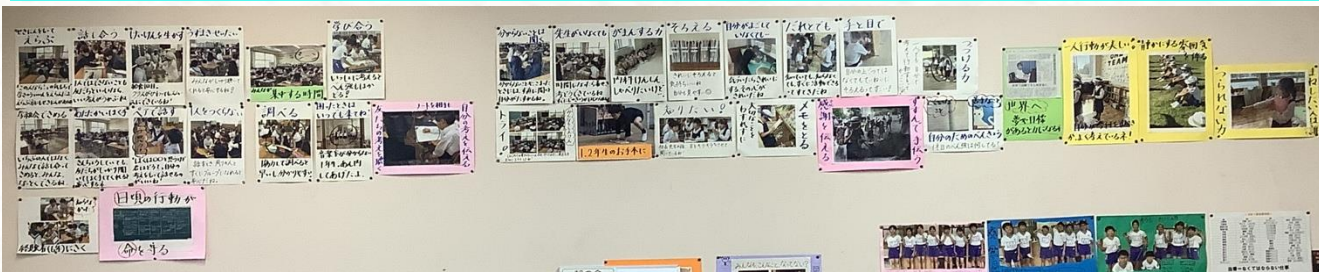
R6. 1 年部



R6. 2 年部



価値語の取組



R6. 4年部

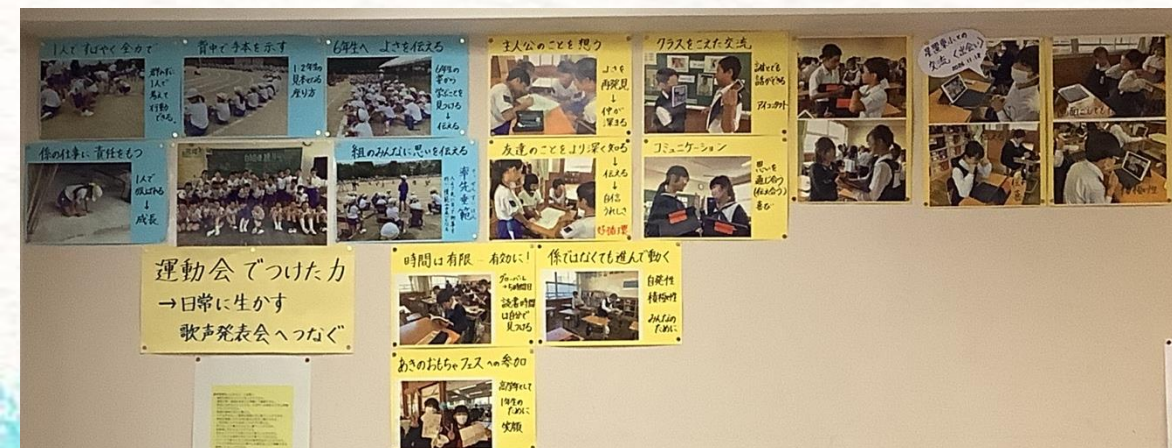
R 6. 3 年部

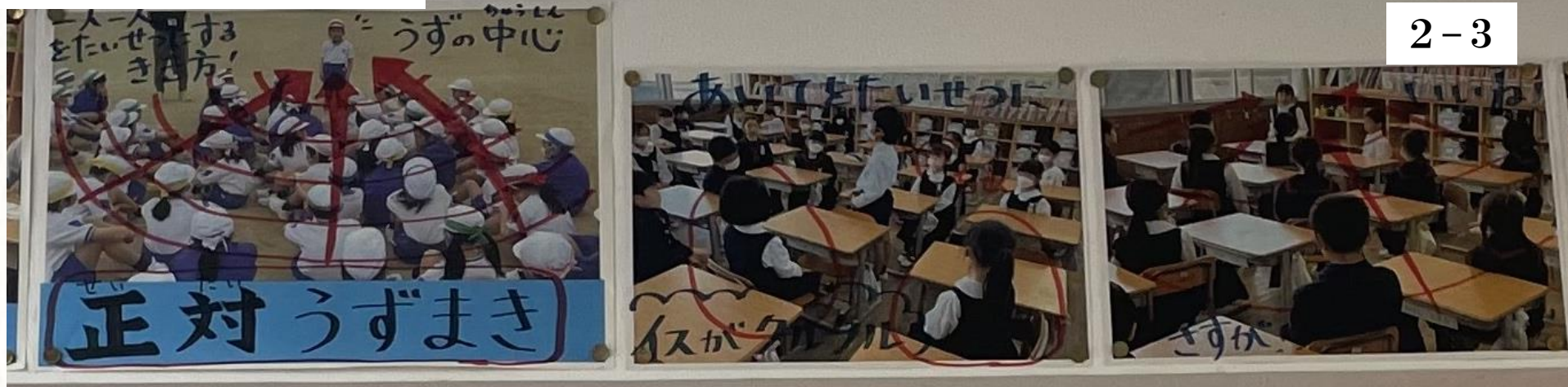


価値語の取組

R6. 6 年部

R6. 5 年部





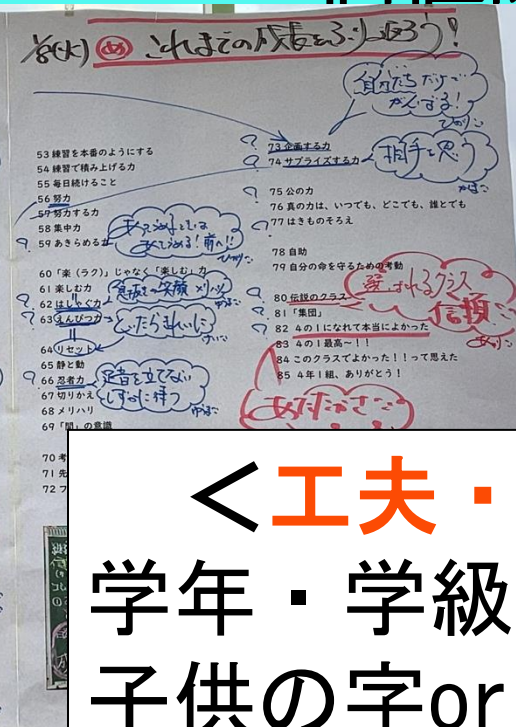
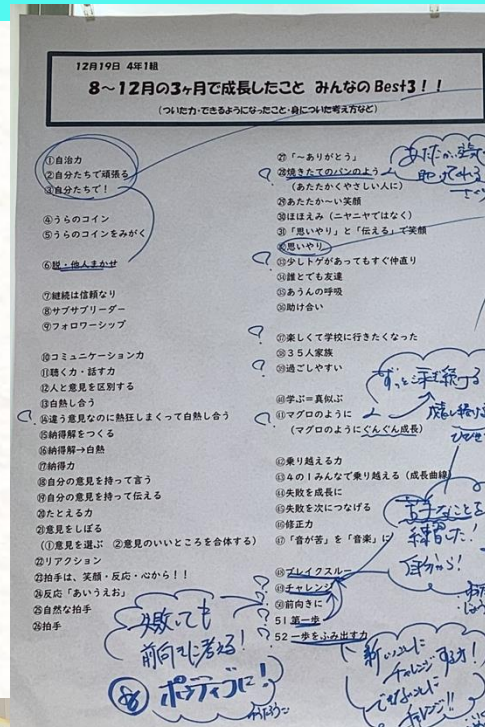
「うずまき」みたいに見えるってすごいね 相手を大切にできているってことだね



反応、うなずきが「やわらかい雰囲気」に「りりしさ」に

全員で発言し聞くことは「りり

価値語の取組



<工夫・個性>
学年・学級
子供の字or教師の字
内容
場所
貼り方
デジタルorアナログ

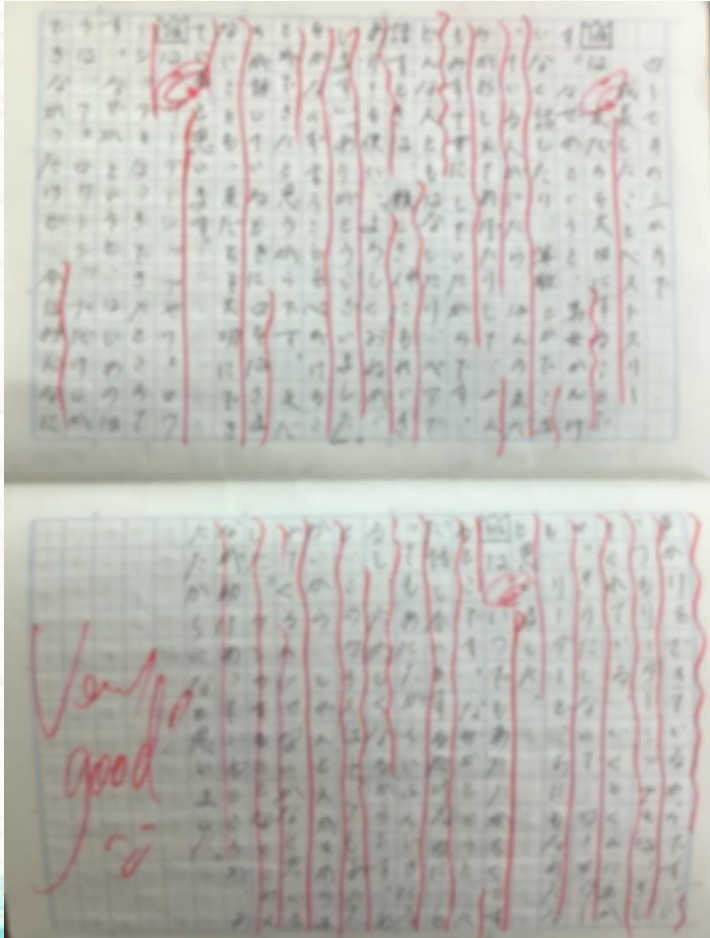


成長ノートを取組

1. 本校が取り組む成長ノートとは・・・

＊菊池省三先生の実践を参考に・・・

「自分の内面を見つめ、それを自分の言葉で書き記していきながら、教師と子どもがつながり、成長へと向かうためのノート」



<ねらい>

①「子どもたちに、**心の成長を実感**させる」

学校生活の中での望ましい姿や考えさせたい出来事について**自分の内面を見つめ**させながら、その時その場面にあった言葉で書かせたり、それに対する**教師の考えを伝え**たりすることを通して、**心の成長を実感**させるとともに**自己肯定感**を高める。

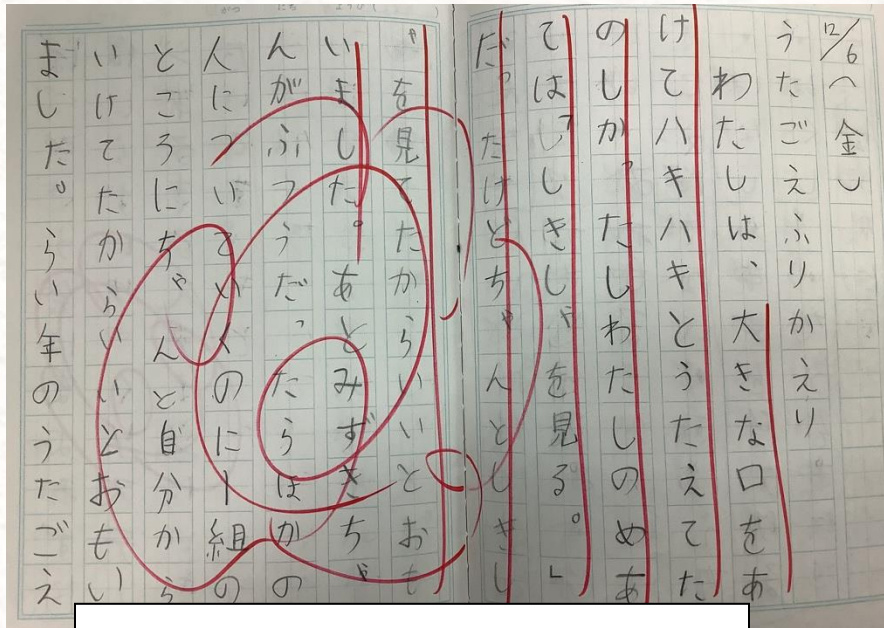
②「教師が**子どもとつながる**」

子どもが表現した内容に心を傾け、些細な**変化や成長**を見逃さず、個々の内省と教師との対話を繰り返しながら、子どもに**寄り添い繋**がっていく。

③「**書くことに慣れ**させる」

褒めて励ましながら、**繰り返し取り組んでいく**ことにより「**書ける**」「**書いてみたい**」という**気持ち**を持てるようにしていく。

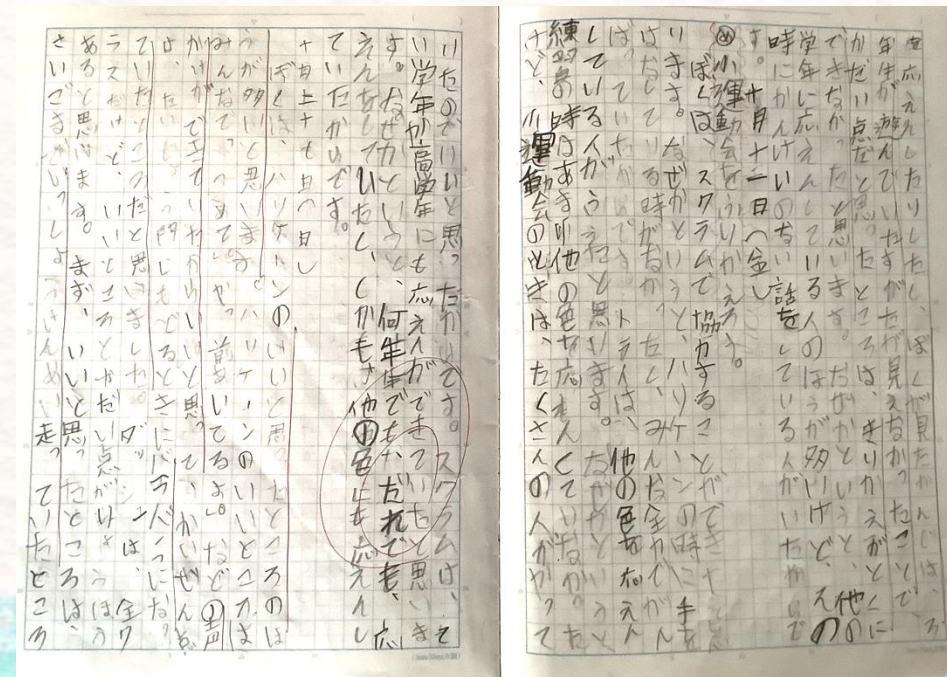
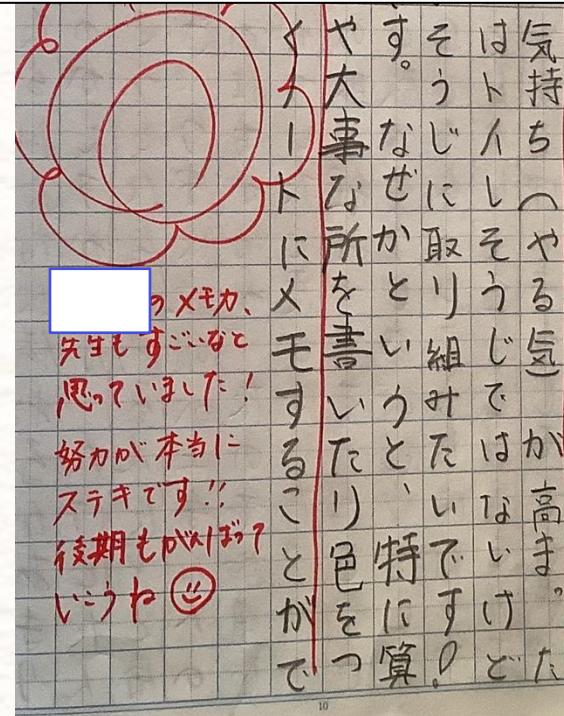
成長ノートの取組



心の成長を実感

教師が子どもと
つながる

書くことに慣れさせる



信頼と承認の空間としての教室

自己承認

自分は自分で
OK

◎フリーストーク
◎ほめ言葉のシャワー
◎価値語
◎成長ノート
○人間関係づくり
プログラム 等

相互承認

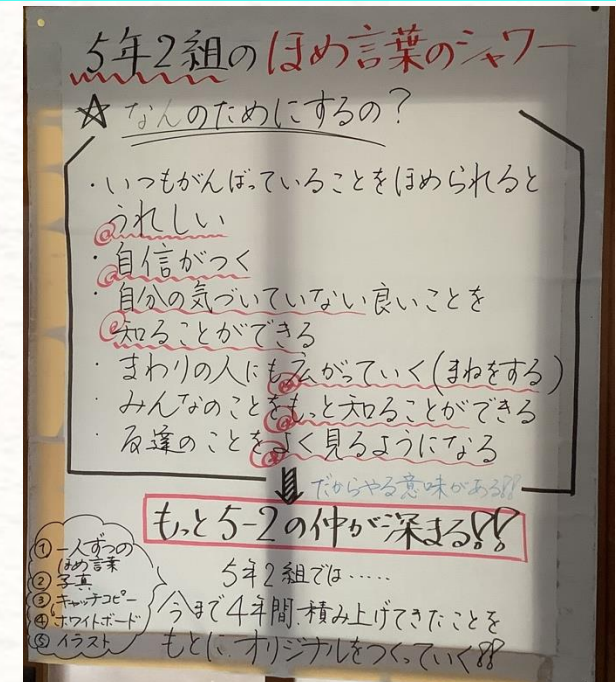
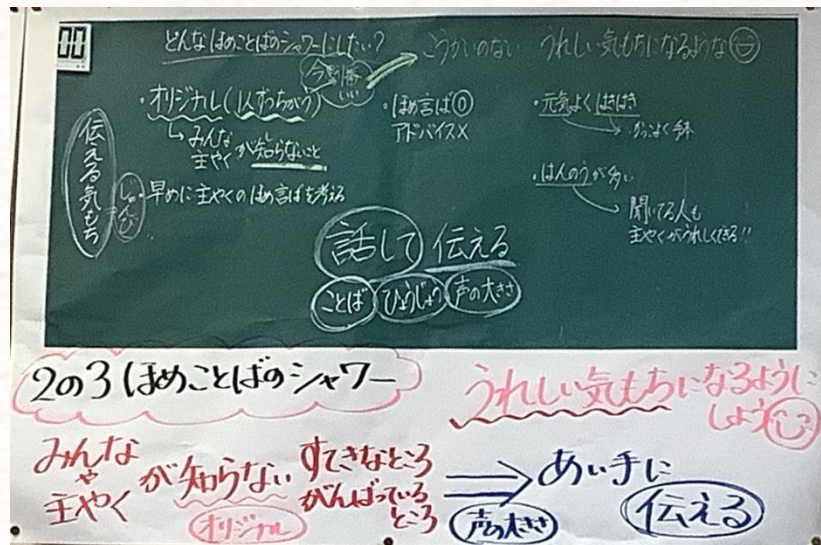
相手もOK

信頼関係



R6年度 修了式での姿

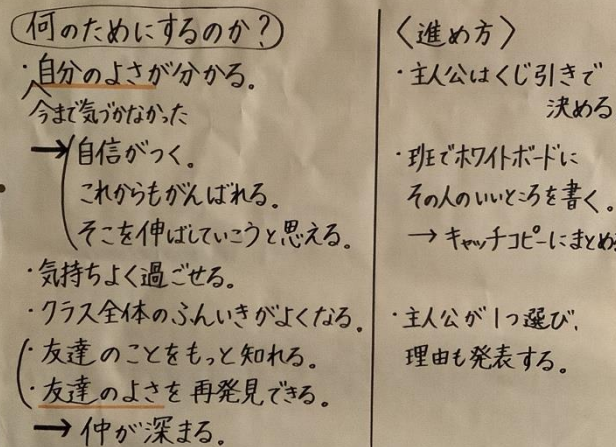
学級経営の取組



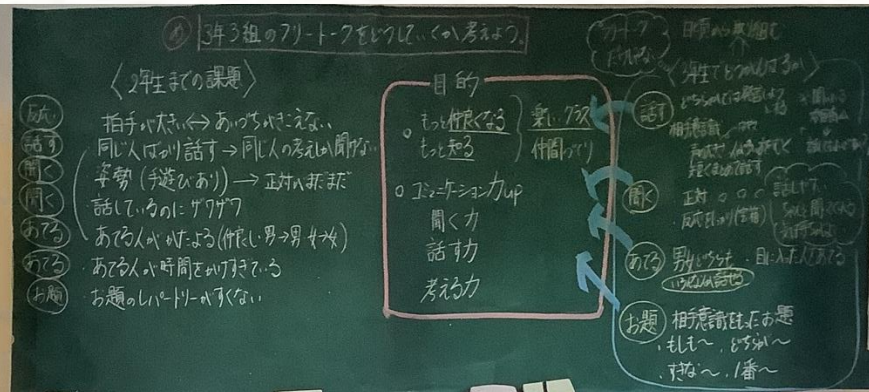
めあて・目的 の確認→「見通し」



ほめ言葉のシャワーに取り組もう。



学級経営の取り組み



目的を意識して、

楽しい時間をすごそう

あて方 拍手を見る

- ①あててみる
- ②男

聞く 話人フェス
メリハリ

- ①正対
- ②拍手+反応

話す 話内容の輪

- ①言いたい
- ②短くわかりやすく

フリースピーチ
2周目の
ポイント

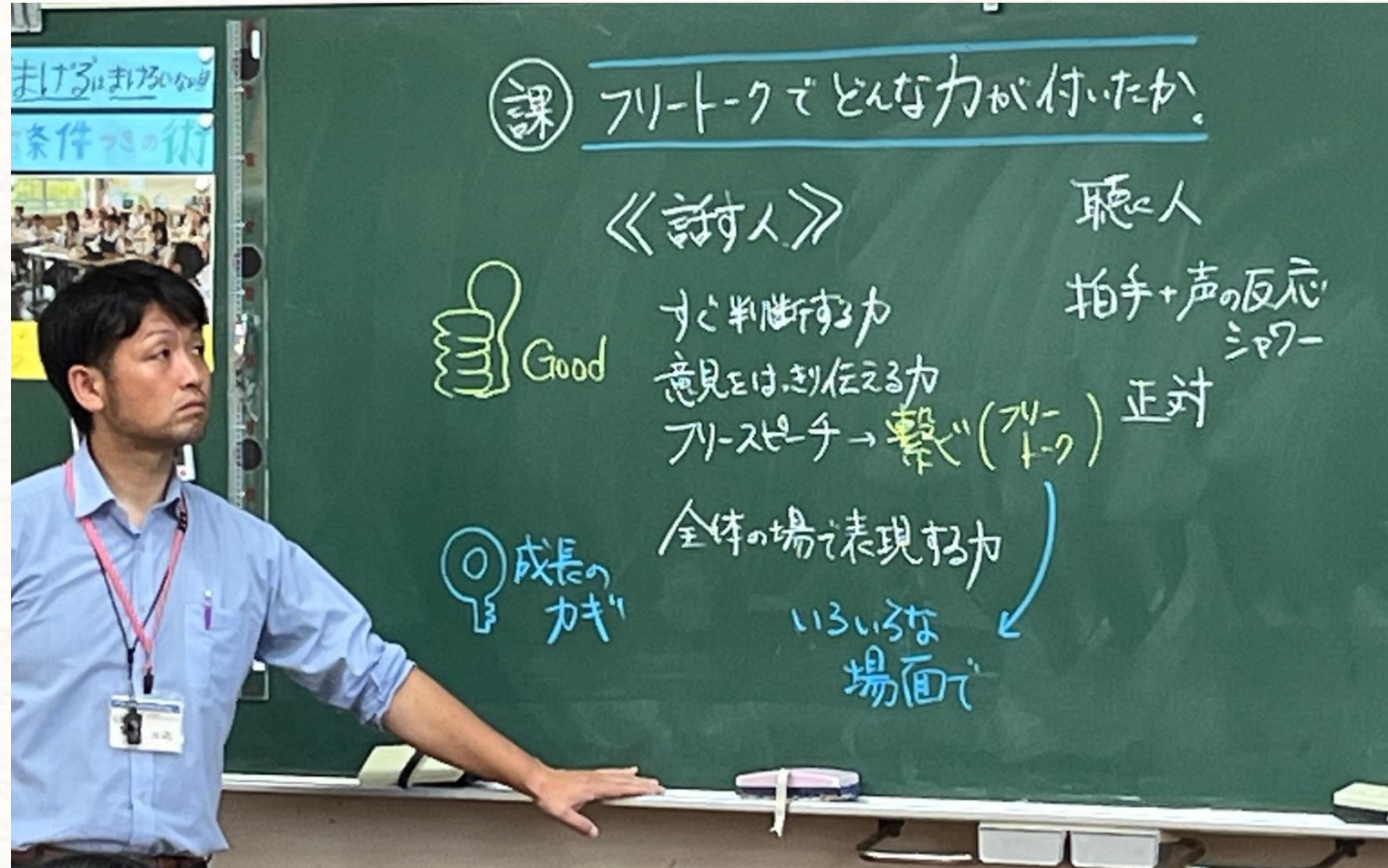
1周目の成果

くらべる コミュニケーション力
聞く力
相づち 考える力 うずまき きょう感
共感力 対 はっぴよう

聞く力、バリエーション

フリースピーチの流れ

- ①お題の発表
- ②フリースピーチ
- ③ふりかえり
- ④次回のお題
- ⑤先生から



振り返り→次に繋ぐ

<成果>

R6年度まとめ

- 取組の目的を児童の言葉で確認できた
- 多様な方法（特に価値語）

<R7年度に向けて>

- ほめ言葉のシャワーの方法について確認する
（子供たちと生み出す・研修で話し合う・実践を互見する）
- より日常の言動に繋ぐ
- 地域貢献・発信

目的→必要に応じて振り返り→ブラッシュアップ

学級経営の四つの取組については、
活動の意義や目的を理解し、子どもたちと共有することが大切です。

ただやるだけでは、子どもたちの成長にはつながりません。

活動のスタート、活動中の振り返り等で意義や目的、成長の様子について子どもたちと一緒に考えていきましょう。

そして、**活動を日常化に繋げていきましょう。**

